



青木 のりお の

青のりレポート!

AONORI REPORT
http://aokinorio.com

市議会 報告

6月2日から6月25日まで「令和7年第2回川崎市議会定例会」が開催されました。6月2日に議長職を退任後、初の一般質問に登壇し、持続可能な医療、観光政策、スポーツパートナー、アンバサダー制度について質問致しました。自民党代表質問では本間議員が登壇し、市政運営の総括から、まちづくり、教育、子育て、福祉など様々な分野において質問が行われました。一部抜粋してお届けします。



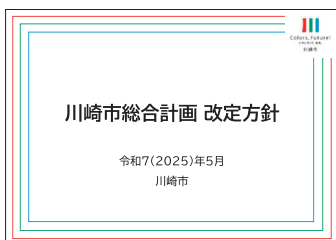
一般質問

一般質問 持続可能な医療の実現に向けた取組みについて

川崎市民の間では、現行の医療体制は未来の子供たちから借金をして維持していると言う事に問題意識を持ち、自分たちが健康になることで有限な医療資源を大切に使おうと市民啓発が起こっている。

質問 医療費の適正化に向けた動きは、川崎市としても総合計画に反映するべきであると考えている。今後の具体計画について三田村副市長に伺う。

答弁 現在、今年度末の総合計画第4期実施計画の策定に向け、様々な視点から検討を進めている。今後、医療資源に掛かる負担も増大する中、持続可能な医療体制を確保し、必要な医療を真に必要な市民に確実に届けるためには、市民一人ひとりの「健康」や「医療資源」に対する意識を高め、「セルフケア」の取組を一層促進していくことが重要であると考えている。こうした認識のもと、市民団体や民間企業等の活動やノウハウを最大限活用し、有機的な連携を図ることで、「セルフケア」の定着・習慣化や市民意識の更なる醸成を促し、医療費の適正化を図り、ひいては医療資源の最適化にもつなげられるよう、引き続き、取組を進めていきたい。



川崎市総合計画の改定に向けて
(市HPより)

内容は
こちら



市民自らが「防げる病気を防ぐ」「適切に医療を利用する」ことで医療資源を節減し、節減した資源を殿町で行われている最先端治療の開発に回すと言った健康循環型社会を完成させることができるのは川崎市ならではの取り組み、いわば「川崎モデル」である。

質問 殿町での最先端治療までを含めた「健康循環型社会」について見解は？



答弁 「市民の努力により創出された資源が、新たなナノ医療技術の研究や開発などを含め、別の形・分野で活用されながら、社会や資源の好循環に寄与すること」を伝えていくことは必要であると考えている。こうした認識を持ちながら、今後、関係局と国に対する医療資源の好循環や受療行動の適正化等についての働きかけを検討するとともに、引き続き、市民団体や民間企業等の各ステークホルダーと連携した市民啓発に努めていきたい。

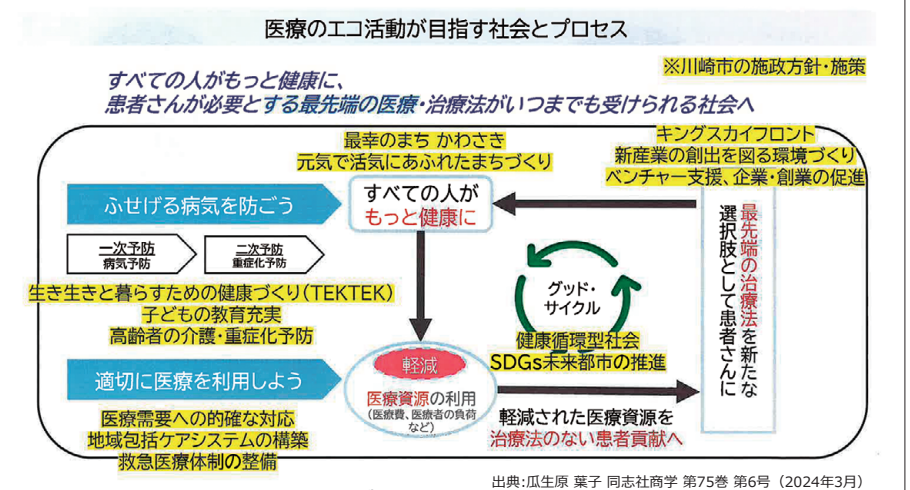


昨年、文部科学大臣が「世界最高水準の研究開発拠点」としてキングスカイフロントを視察。(文部科学省HPより) 節減した資源をここでの開発に回す取組は川崎ならではのものです。

持続可能な医療の実現に向けて市民が様々な活動を行っているが、この動きは教育機関にも広がっており平間小学校や橘高校で市内大学生による啓発授が行なわれている。未来の医療体制の維持のためにも医療資源が有限である事を理解することは大変重要だと考える。

質問 医療資源の大切さについて、教育の場での啓発についてどのようにお考えか教育次長に伺う。

限りある医療資源の市民啓発事例



答弁 社会科では、医療など社会保障費の財政負担が増大し、財政の状況が悪化していること、体育・保健体育科では、病気の予防についての理解や、健康の保持増進、疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用すること、医薬品を正しく使用することなどについて学習している。これらの学習を通じて児童生徒が医療資源の大切さを知ることは、これからの時代において、重要であると考えている。

意見 青木より一言

10年後の川崎は市民自らが健康を守り、医療資源の価値を理解し、節減された資源を制度の維持や最先端医療や未来世代につなぐことで、全国のモデルとなる「健康循環型社会」を実現する都市であるべきです。

一般質問 観光政策について

アニメ「ガールズバンドクライ」は川崎を舞台にし、市内の名所を紹介することで川崎の認知度を高める良い機会となった。同アニメと連携してアゲハスプリングスプロデュースのガールズロックバンド「トゲナシトゲアリ」は、海外からも非常に人気の高いアーティストである。

質問 知名度の高いアーティスト等と連携について見解は？

答弁 アーティスト等と連携は、本市の認知度向上など観光振興につながる機会になるものと考えている。「トゲナシトゲアリ」については、海外公演においても大きな反響があるなど、国内外から注目を得ていると承知しており、連携した取組について調整を進めている。今後に向けても、アーティスト等と連携するなど、本市の魅力発信を通じて、国内外からの誘客につなげていきたい。

意見 青木より一言

アゲハの取り組みでは、子どもたちにエンターテインメントの夢を持たせることが重要視されており、本市はこのメッセージを受け入れ、支援を行うべき。10年後の川崎は、アニメや音楽世界と響き合うコンテンツと連携し、子どもたちの夢を育むみながら、国際的な認知とシビックプライドを同時に高める創造発信都市を目指すべきです。



川崎100フェスに出演した「トゲナシトゲアリ」(写真Sakata Yoshihiro (THINGS.))

一般質問 川崎市スポーツパートナーとアンバサダー制度について

本年4月1日付でプロダンスチーム、カドカワドリームズが川崎スポーツアンバサダーに承認された。

質問 市内企業ではないカドカワドリームズが承認された理由は？

答弁 同チームにおいては、中原区を活動拠点とし、Dリーグチャンピオンシップを2連覇するなど、豊富な競技実績があり、溝口エリアの清掃活動、防犯キャンペーンやみんなの川崎祭への参加など、多数の地域活動を行っているため認証した。今後は市民のスポーツへの関心をさらに高めるとともに、競技活動を通じた発言により、本市の魅力を高め、若い世代が集い賑わうまちづくりが図れることを期待している。

意見 青木より一言

カドカワドリームズは惜しくも3連覇を逃しましたが、ダンスの持つ可能性を引き出してくれたと感じます。1万人の生徒に対してのダンスレッスン企画が始まり、多くの学校から応募があったとの事。

市はこの企画を成功に導いていただきたい。

質問 現在のスポーツアンバサダーの現状と、今後の認証の考え方は？

答弁 現在6団体を認証しており、本市を拠点に競技活動を行っている他のスポーツ選手や団体から、要件となっている過去5年以内の国際・国内大会等への出場実績や3年以上継続して行う地域活動の内容について、相談をいただいている。認証にあたっては厳格に要件の適用を審査するなど、制度の適切な運用を図りながら、アンバサダーの積極的な活動を通じて、「スポーツのまち・かわさき」の推進を図っていきたい。

意見 青木より一言

10年後の川崎は、市内外の多様な主体とつながりながら、スポーツや文化を通じて地域と子ども達を育み、その活動を柔軟に制度に反映できる、共創と進化の都市であるべきです。



スポーツアンバサダー認定書贈呈式(市HPより)



カドカワドリームズ(市HPより)

代 表 質 問

代表質問 北部市場機能更新事業について

昨年9月、総合評価一般入札による入札公告が行われ、本年5月、落札者が決定された。

質問 落札者の提案内容について市の受け止めについての見解は？

答弁 選定された提案は、青果・水産等の各部門の必要な機能をそれぞれ一つのフロアに集約し、場内事業者等の業務効率化を図るとともに、卸売市場と一体となった加工・配送等を行う食品流通施設、食の魅力を発信する賑わい施設を整備、運営するものであり、食品流通拠点としての機能強化、市民に親しまれ地域に根差した市場の実現が期待できる内容であると考えている。

質問 場内事業者との調整についての見解は？

答弁 各諸室の整備内容やゾーニングなど、場内各部門や全体の会議等で調整を行ってきたところ。引き続き、使い勝手の良い市場となるよう場内事業者等関係者との協議・調整を適切に実施していく。

質問 地域への情報共有や説明会の考え方は？

答弁 これまでも周辺自治会等に説明を行ってきたが、落札者が決定したことを受け、周辺自治会等に周知を図るとともに、引き続き事業の進捗に合わせて説明会等を行うなど、丁寧に情報共有を行っていく。

質問 建設費の高騰をはじめ、経済環境が大きく変化する中で、今後、落札者との基本協定及び、事業契約に向けての取組みは？

答弁 適切なリスク分担の設定等に関して、市、落札者双方で認識の整合を図ることが重要であることから、契約締結後の円滑な事業推進も見据えて、綿密なコミュニケーションを図りながら、落札者との合意形成を目指していく。



北部市場機能更新に係る基本計画(市HPより)

内容はこちら



公表用提案概要書の一部(市報道資料より)

代表質問

かわさきGIGA端末の更新について

現在のGIGA端末のリース契約は令和8年3月30日に満了を迎える予定であり、順次、端末の更新に向けた検討が進められている。

質問 国による財政措置の状況は？

答弁 要請活動を行ったところ、国の令和5年度補正予算において、前回整備時には1台当たり4万5千円であった補助基準額が5万5千円に引き上げられたとともに、補助率は引き続き3分の2、補助額は約3万6千円とされた。

質問 補助要件の変更点は？

答弁 タッチペンの調達を含む国のスペック基準を満たすことや、指導者用端末の整備、日常的な利活用に係る計画の策定と公表などが必須条件となった。

質問 タッチペンの調達方法や紛失等への対応は？

答弁 児童生徒の利用に支障が出ないよう、費用対効果も勘案しながら適切な手法を検討していく。

質問 端末の故障率についての分析は？

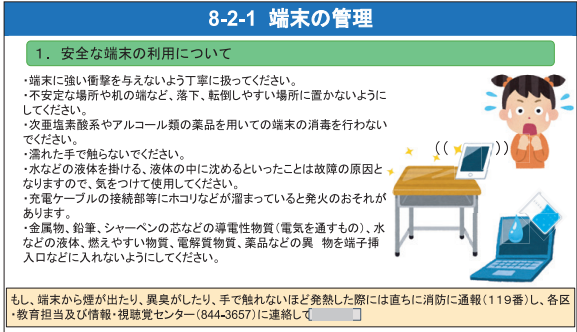
答弁 令和3年10月に市内で発生した端末の発煙事故は、電池パッケージ内のネジの混入と端末の落下が原因であり、全台点検以降は同様の事象は発生していない。本市も含めた指定都市の端末の故障率については、新聞報道によると、比較的数字に大きな差が出ている。端末の形状や使用状況、持ち帰りの頻度など、様々な要因が影響しているものと考えている。

質問 端末の取扱いに関する、安全教室の開催やガイドラインの策定状況は？

答弁 初めて端末を手にする小学校1年生に対して各学校で丁寧に扱うよう指導を行っているほか、啓発動画の配備やWEBサイトを通じた家庭へのお知らせ等により周知を図っている。

質問 内蔵バッテリーの交換について「オンサイトバッテリー交換を端末ごとに一回行う」と仕様書で定めているが、国の要件か？他都市の実施状況は？

答弁 国の補助要件には定められていない。指定都市では本市の他に、名古屋市が実施したと聞いている。



端末の管理について（市HPより）

代表質問

教員の人材確保・働き方改革について

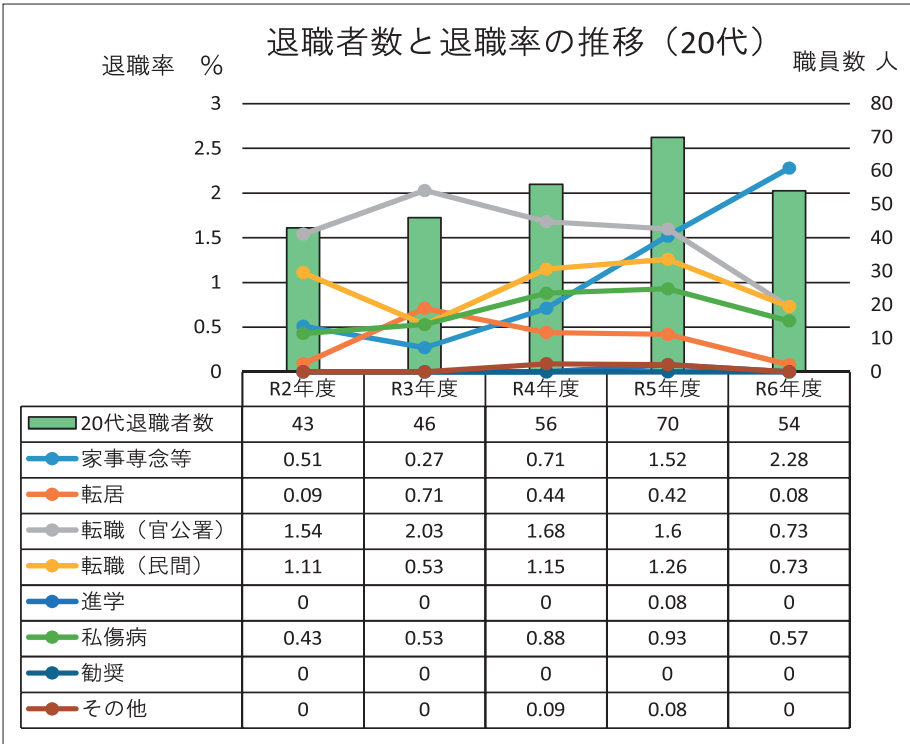
本市の教員不足は恒常化しており、令和7年度当初の欠員数は168人、未充足の合計は120人となった。教員定数の標準に占める正規教員の割合は93%となり、近隣他都市と比較すると低いことが文教委員会の中で明らかとなっている。退職者数の多い20代30代の主な退職事由は家事専念等だが、30代では官公署への転職が1位であり、ここでも自治体間の採用競争の様相が見受けられる。

質問 現状の見解と今後の対策は？

答弁 人材確保について、本市の正規教員の割合は、指定都市中8位となっており、引き続き、正規教員の確保に努めていく。定年以外の退職については、昨年度の20代から30代までの退職者数は112人、うち官公署へ転職した人数は36人。退職者を対象としたアンケートによると、「家事専念等」では、育児、介護や結婚が、「官



公署への転職」では、自身や配偶者の出身地等での就職が主な理由となっている。教職員の働き方・仕事の進め方改革と人材の安定的確保を両輪で進め、本市の教員になりたい、本市で働きたいと感じられる職場づくりを推進していく。



20代の退職者数と退職率の推移（文教委員会資料より）

校種	内訳	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校	定数	3,569	3,582	3,686.5	3,766.67	3,847.08	3,913.49
	欠員	71	78	90	59.5	98.5	61.5
	新規採用者	180	148	182	228	192	269
中学校	定数	1,770	1,765	1,787.5	1,814.8	1,869.75	1873.75
	欠員	81	98	96	126	97	54
	新規採用者	88	44	71	85	122	149
高等学校（全・定）	定数	400	398	397	397	395	396
	欠員	42	39	40	31	28	23
	新規採用者	13	11	11	20	21	23
特別支援学校	定数	372	366	353	345.2	366.33	375.17
	欠員	29	24	32	22	36	29.5
	新規採用者	31	19	14	25	23	28
合計	定数	6,111	6,111	6,224	6,323.67	6,478.16	6,558.41
	欠員	223	239	258	238.5	259.5	168
	新規採用者	312	222	278	358	358	469

川崎市立学校教員の定数・欠員状況及び新規採用者数の推移（文教委員会資料より）令和3年度以降、新規採用者数を増やすことで、定数の増加数に対して欠員数は減少させている

代表質問

川崎市水道料金制度の見直しについて

本市の水道料金及び下水道使用料の制度は約60年間変わっていなかったが、社会環境や水の使われ方も変わったため、見直しをすることとした。

質問 低廉な水道料金を維持してきた事実を戦略的に市民へ発信してこなかった背景と説明責任についての考えは？

答弁 本市の料金が低康であることについて、広報紙へのトピックとしての掲載や、「みずみずフェア」（川崎フロンターレと連携して開催するイベントブース）で、試合当日対戦チームのホームとする都市との料金比較等によりPRしてきた。昨年5月に、料金制度等のあり方について、有識者等で構成する「上下水道事業経営審議委員会」へ諮問した際は、大口の水需要が減少していることなどの諮問の経緯を広報紙に掲載するなどの取組を実施してきた。しかし、取組が市民の皆様にはしっかりと伝わっていないと認識しており、本年4月に、同委員会から「中間報告」を受けた際には、市民の皆様にはわかりやすく伝えるよう広報紙で特集を組むとともに、関係局の協力も得ながらSNSやウェブサイトによる発信等を強化した。本年5月には、局内において「広報強化プロジェクト」を立ち上げたところであり、「伝わる広報」の取組を強化していく。

質問 東京都が実施する基本料金の無償化などの支援措置実施は検討しないのか？

答弁 本市の年間の水道料金は、一般家庭の平均的な使用水量、月



「みずみずフェア」ウェルカムアーチと給水タンク（市HPより）

経営審議委員会の
中間報告については
こちら



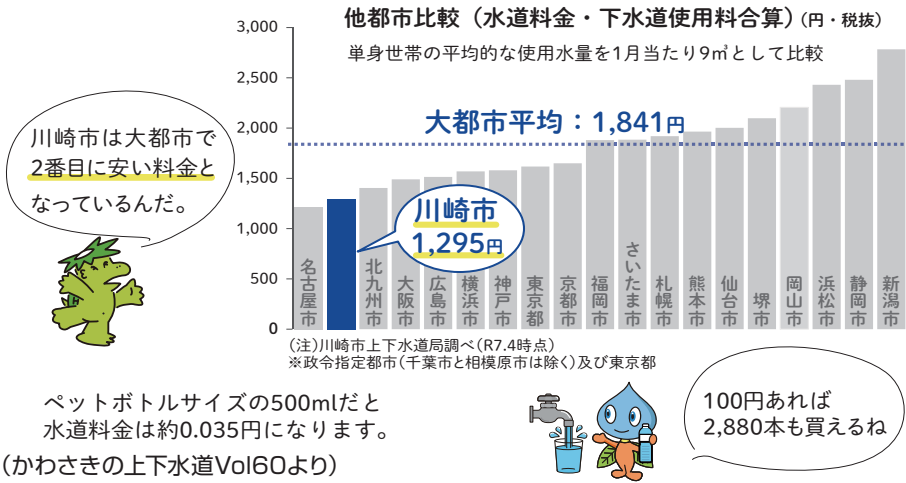
14立方メートルで比較した場合、東京都と比べ、税抜きで、6,000円程度安く、東京都が行う4カ月分の軽減額、約5,000円を勘案しても、本市の方が安価となり、既に低廉な料金設定となっているため、実施を検討する状況にはないものと考えている。

質問 今のままの水道料金制度を続けていくことについての見解は？
答弁 安定給水を維持し、かつ、市民生活の安全・安心を守るためには、管路、施設の計画的な更新・耐震化が必要不可欠であり、あわせて、その安定的な財源の確保も必要不可欠。こうした中、物価、資材価格等は上昇しているとともに、今後、水需要の減少傾向に伴い、料金収入は更に減収していくことが見込まれることから、このような環境変化にしっかりと対応できる料金制度への見直しに向けて検討を進めている。

意見 青木より一言

本市は全国でも屈指の低廉な水道料金を維持し2010年には実際に値下げを行いました。市民には伝わっておらず、市民からすれば、今回の制度改定は突然の値上げの可能性を突きつけられたという印象を強く与えています。市民が納得できる制度改革とは、「負担のお願い」ではなく、まず「これまでの恩恵をどう支えていたか」を正確に説明しその上で「なぜ今、それが限界を迎えているのか」を共に考える「対話の姿勢」ではないでしょうか。本市が、これまで10年以上にわたって政令指定都市の中でも最も低廉な水道料金を維持してきた事実を市民の皆様に丁寧に発言する必要があります。

リーズナブルな川崎市の水道料金・下水道使用料



代表質問 等々力緑地について

質問 市長公約にあった「等々力緑地をスポーツの聖地に」について、目指すべき聖地のあり方、「スポーツの聖地」作りの策定方針について伺う。

答弁 これまでも川崎フロンターレや川崎ブレイブサンダース等の本拠地として、トップレベルのプレーを間近に見ることができる機会を提供してきたとともに、スポーツ活動を行える場所としても市民に親しまれてきた。再編整備の機会を捉え、世代を超えて楽しめるスポーツの聖地として、市民が誇りを持てる場所となるよう取り組んでいきたい。



等々力緑地の未来像とありたい姿(市HPより)



メインアリーナ内観イメージ(市HPより)

代表質問 全国都市緑化フェアについて

全国都市緑化かわさきフェア開催を契機として、各区にて地域のボランティア団体と行政が主催し、さまざまなイベントを実施した。参加者からは再度の開催要望の声も聞かれた。

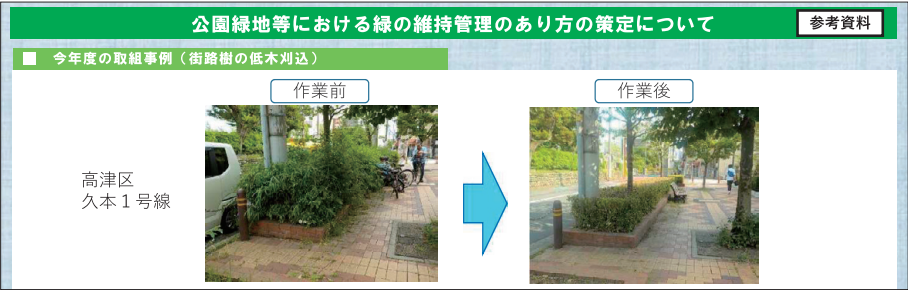
質問 取組の評価、今後の方向性は？
答弁 フェア開催を契機として、市民・企業・団体などと共に協働の取組みを実施した。こうした取組みは、地域の様々なみどりの活動を多くの人に知ってもらい、新たに活動に参加していただくなど

の一定の成果があった。今後についても、様々な機会を捉え、引き続きみどりの価値を知ってもらい、多様な主体がつながるよう、推進していく。

質問 フェア終了後の計画的な樹木選定及び、維持管理の在り方は？
答弁 かわさきフェアを契機として、より安全・安心で良好な緑豊かな都市空間の創出に向けて、令和6年度から公園緑地の植栽と街路の維持管理に係る予算を拡充し、特性に応じ、一定のサイクルによる、高木剪定や低木の刈り込みを実施している。令和7年度についても、さらに予算を拡充し、取組みを進めている。引き続き、今年度中の「緑の維持管理のあり方」の策定にむけた取組みを進めていく。



かわさき緑化フェアにおける代表的な協働の取組み紹介(市HPより)



令和6年「公園緑地等における緑の維持管理のあり方」の策定について(市HPより)



＼青木のりお事務所 LINEアカウント始めました！／
お友だち登録をお願い致します▶
ご登録の際にはお手数ですが、お名前をフルネームでご連絡下さい

青のりレポートを読んで
川崎を知って下さい。
一緒に街を創りましょう。
御意見下さい。 青木功雄

川崎市議会議員 青木のりお事務所
〒213-0029 神奈川県川崎市高津区東野川2-29-21
TEL 044-788-8899 E-mail info@aokinorio.com